

令和 7 年度（令和 6 年度対象）
生駒市教育委員会活動点検評価報告書
（案）

令和 7 年 8 月

生駒市教育委員会

生駒市教育委員会活動点検評価報告書の作成にあたって

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」で示された基本方針に基づく具体的な事業を掲げた教育大綱アクションプランを毎年度策定しています。教育大綱アクションプランは、社会情勢の変化や点検・評価の結果を踏まえ、毎年度見直しを行っています。

令和５年度までは、第２次生駒市教育大綱を基にしたアクションプランに基づき事業を進めてきました。しかし、第２次生駒市教育大綱の策定から４年が経過したことから、社会情勢の変化や新たな教育課題に対応するため、令和６年度に第３次生駒市教育大綱を新たに策定しました。第３次生駒市教育大綱は、教職員等によるワークショップを１８回行ったほか、市内小学校５，６年生と中学生等へのアンケートも実施し、「みんなで作り上げた教育大綱」となっています。

令和６年度は、第３次生駒市教育大綱を基に、『自分らしく「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう』の基本理念の実現に向けて、教育大綱アクションプランを策定し、施策や事業に取り組んでまいりました。

この生駒市教育委員会活動点検評価報告書では、新しい教育大綱の理念の実現に向けて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、教育大綱アクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に、令和６年度の実績の点検・評価を行いましたので、同法第２６条の規定により報告します。

令和７年８月１９日

生駒市教育委員会

教育長 原 井 葉 子

目 次

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価 について	1
1 報告書の位置付け	1
2 国等の動向	1
3 点検評価の概要	2
4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見	6
教育委員会の活動状況	7
教育大綱に基づく施策・事業	10
基本方針1 主体的に楽しく学ぶ人であるために	10
1 あらゆる世代の主体的な学びの推進	10
2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成	19
基本方針2 学びを通してつながり合える地域であるために	25
1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり ..	25
2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり ...	36
基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために	43
1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備	43
2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備	50
3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備	58
点検及び評価に関する意見	66

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価について

1 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

2 国等の動向

国では、改正法が平成27年4月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成28年度末に改訂され、幼稚園は平成30年度、小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施され、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組や、小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わりました。

あわせて、令和2年度には新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、GIGAスクール構想が前倒しされ、情報端末が児童生徒1人に1台配備されました。また、中央教育審議会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱とした「令和の日本型学校教育」の実現が求められています。

生駒市では、平成28年6月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度PDCAサイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。

なお、本大綱は推進期間が4年間とされていたことから、令和2年6月に第2次生駒市教育大綱を策定し、具体的な取組を進めてきました。

令和6年度には、策定から4年が経過した第2次生駒市教育大綱を社会情勢の変化やアクションプランにおける実績や成果等を踏まえて、新しく第3次生駒市

教育大綱を令和6年6月に策定しました。

【生駒市教育大綱策定の経緯】

平成28年6月 生駒市教育大綱 策定

令和2年6月 第2次生駒市教育大綱 策定

令和6年6月 第3次生駒市教育大綱 策定

3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

教育委員会が行っている活動を大きく下記の2つに分類し、それらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②第3次生駒市教育大綱に基づく施策・事業

第3次生駒市教育大綱体系図

基本理念 自分らしく「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう

基本方針1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進

2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成

基本方針2 学びを通してつながり合える地域であるために

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり

2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり

基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備

2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備

3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備

(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を４段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得た。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した。
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない。
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない。

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、取組内容や当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価を行います。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かします。

(3) 評価の総括

教育委員会の活動状況

事業数 7 S : 0 A : 7 B : 0 C : 0

事業名	評価
教育委員会会議の開催	A
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	A
その他市教育委員会主催事業等への参加	A
教育委員としての資質・能力の向上	A
各種教育機関との連携	A
総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	A
教育大綱アクションプランの策定	A

教育大綱に基づく施策・事業

総事業数 69 S : 7 A : 55 B : 7 C : 0

基本方針 1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

事業数 22 S : 3 A : 18 B : 1 C : 0

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進	評価
小学校高学年教科担任制推進事業	A
学校図書館の充実による読書活動推進	A
生駒こどもチャレンジ補助事業	A
部活動支援事業	A
キャリア教育推進事業	S
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援	S
教育・保育の質の向上	B
保幼小接続推進事業	A
「サイエンス探究教室」の実施	A
ビジネス支援事業	A
小学校1年生30人程度学級の実施	A
2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成	評価
自殺対策推進事業	A
デジタルシティズンシップ教育の推進	A
いじめ防止等の施策推進	A
特別支援教育の充実	A
不登校支援推進	A
校内サポートルーム事業	S
自校式通級指導教室推進事業	A
スクールカウンセラー配置の拡充	A
スクールソーシャルワーカー配置の拡充	A
多様性を認め合う場の提供	A
図書館読書バリアフリー事業	A

基本方針 2 学びを通してつながり合える地域であるために

事業数 18 S : 0 A : 18 B : 0 C : 0

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり	評価
いこま教育フォーラム	A
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	A
高齢者教育推進事業	A

学びと活躍推進事業	A
歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信	A
「音楽のまち生駒」推進事業	A
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	A
地域スポーツ推進事業	A
新たな地域クラブ活動推進事業	A
2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり	評価
放課後子ども教室の運営	A
コミュニティ・スクールの推進	A
幼稚園コミュニティ・スクールの充実	A
高齢者の学びを「行動」につなげられる仕組みづくり	A
家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援	A
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	A
こども読書活動における家庭・地域・学校の連携	A
総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	A
スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	A

基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために

事業数 29 S : 4 A : 19 B : 6 C : 0

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備	評価
教職員のウェルビーイングを実現する働き方改革	A
学校屋内運動場空調設備整備事業	S
認定教育者資格取得支援事業	S
先進校視察支援事業	A
講師不足対策	S
「教頭の業務の再定義」を核とした学校の業務改善と教師の働き方改革施策	B
市立幼稚園における預かり保育の実施	A
特別支援教育の充実	A
積極的な情報公開と学校評価の実施	A
2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備	評価
小中学校施設の計画的な大規模改修事業	B
生駒南小学校・中学校整備事業	A
学校給食センター整備改修工事	A
これからの時代の学校図書館のあり方創造事業	A
教育系ネットワーク更新	S

保育料の段階的な無償化	A
待機児童の解消に向けた取組	B
市立保育所の老朽化施設の更新	B
壱分幼稚園のこども園化	B
学童保育の充実	A
3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備	評価
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	B
図書館リニューアル事業	A
『生駒市史』編さん事業	A
市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」	A
生涯学習施設整備事業	A
やまびこホール廃止関連事業	A
体育施設整備事業	A
生駒ふるさとミュージアム管理運営	A
文化芸術事業	A
文化財保護と歴史文化の普及	A

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員2名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

事業名	教育委員会会議の開催	
事業の概要	定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。 教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について議決、承認を行う。	
実績・成果	【会議開催回数】定例会：12回 臨時会：3回 【審議件数】議案：31件 報告案件：21件	
評価	A	直接会議の場に参加ができない場合でもオンラインを活用することにより会議に参加できる環境が整えられていることで、委員が直接議論を行う機会を創出でき、規則の制定改廃や学校での事案等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。
担当課	教育総務課	

事業名	学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	
事業の概要	定期学校訪問を実施。 30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行う。	
実績・成果	市内30校園で学校訪問を実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。また、授業の在り方を見直し、授業改善を進めるように助言した。	
評価	A	学校の取組を視察した。第3次生駒市教育大綱に沿った子ども主体の学び方に関して、新たな学び方の現状を確認できた。授業の実態に即した授業改善の観点を助言した。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	その他市教育委員会主催事業等への参加	
事業の概要	成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。	
実績・成果	開催された教育委員会主催事業に参加した。 (二十歳のつどい、市民体育大会、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会)	
評価	A	市教育委員会等が主催する行事に参加し、市教育行政について理解を深めることができた。
担当課	教育総務課	

事業名	教育委員としての資質・能力の向上	
事業の概要	全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。	
実績・成果	市町村教育委員会研究協議会、近畿市町村教育委員会研修大会、奈良県市町村教育委員会連合会研修大会に参加。	
評価	A	対面に加えて、オンラインで開催された研修会にも積極的に参加することで、教育委員各個人において研鑽を積み、能力向上につなげた。また、国の動向や県内外の市町村教育委員会の現状や課題を把握したことは、教育委員の資質向上に有効であった。
担当課	教育総務課	

事業名	各種教育機関との連携	
事業の概要	教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。	
実績・成果	附属機関の活用や教育関係団体との連携を図った。 (社会教育委員、スポーツ推進審議会、子ども・子育て会議、市史編さん委員会)	
評価	A	例年同様に附属機関を効果的に活用し、多様化する教育課題への的確な対応を行った。教育関係機関との連携にも、継続的かつ積極的に取り組んだ。
担当課	教育総務課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	
事業の概要	ICT 教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。	
実績・成果	文化芸術や歴史文化に関する事業では小中学校との連携を進めた結果、子どもたちの参加は大幅に増えたが、各種公演や展示の参加者の多くはシニア層が占めており、子どもから働き盛り世代にも関心を持って参加してもらえようような内容や実施手法の工夫が必要である。	
評価	A	今年度策定した第3次生駒市教育大綱の方針をもとに、重点施策の具体化に向けた協議ができた。また、学校整備や施設開放の制度見直しといった実務的課題に関して、行政内部での方向性を確認する機会となり、今後の円滑な事業推進につながる下地が整った。
担当課	教育政策室	

事業名	教育大綱アクションプランの策定	
事業の概要	大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCA サイクルに基づく実効性のある取組を推進する。	
実績・成果	令和6年度は、第3次生駒市教育大綱（令和6年6月施行）に基づく教育大綱アクションプランを策定した。新たな大綱の基本理念や基本方針を具現化するため、各施策の目的・内容・評価指標を明確に整理し、体系的な実施計画としてまとめた。また、施策推進におけるPDCA サイクルの運用に向け、関係部署との調整を行いながら、進捗管理の枠組みを構築した。	
評価	A	大綱の理念を具体化し、施策全体の見通しと重点の所在を明確に示すアクションプランを策定できたことは、実効性ある教育行政の推進に資するものとなった。今後は、各事業が計画に基づき適切に運用されるよう、指標管理を図る。
担当課	教育政策室	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
第3次生駒市教育大綱の基本理念や基本方針を具現化するために教育大綱アクションプランの実行を進めるだけではなく、大綱の内容を広く周知していく必要がある。	第3次生駒市教育大綱概要版を活用し、新たに生駒市に着任した教職員等到大綱の内容の周知を図る。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針 1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進

〔アクションプラン掲載事業〕

事業名	小学校高学年教科担任制推進事業	
事業概要	文部科学省は令和 4 年度から、教科指導の専門性向上と学校の働き方改革を目的として、小学校高学年での教科担任制を推進している。市内小学校においても、専科教員の加配を県に申請し、高学年における教科担任制の導入に取り組んでいるところである。 加配された教員は全学校に配置されるには十分でない。そこで、県への専科教員の加配を求めつつ、学年全体で学級担任も含めた教科担任制の態勢を整備する。これにより担任一人が学級の問題を抱え込むことなく、多くの教師が連携して児童一人一人の学びを支援していくことを目指す。	
目標	高学年において教科担任制を進め専門性の高い授業を行う。	
取組設定	・週 4 日 3 人 ・週 5 日 4 人	
実績・成果	各小学校に必要な人員を配置することができた。	
評価	A	高学年に教科担任が入ることで、専門的が高い授業が行えるようになった。また、児童に関わる教師が増えたことで、多様な視点で子どもを捉えることができ、学習面・生活面ともに良い効果が生じた。
担当課	教育総務課・教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学校図書館の充実による読書活動推進	
事業の概要	現在、小中学校すべてに学校司書を配置しており、一定の効果が得られている。こどもたち自らが本の魅力に出会い、さらに読書を通じて豊かな人間性を育むため、学校司書の配置を拡充する。	
目標	目標名	目標値
	①学校司書配置日数 ②市内中学生ビブリオバトル開催数	①3日/週 ②1回/年
取組設定	・学校司書を全小中学校に配置 ・ビブリオバトル市内中学生大会の実施	
実績・成果	・小中学校に週3日学校司書を配置した。 ・ビブリオバトル開催数：1回	
評価	A	学校司書と司書教諭が連携し、図書館環境の整備や関連イベントの開催を通じて、児童生徒の読書意欲を高めた。特に、学校司書が中心となって実施した中学生対象のビブリオバトルは、生徒が主体的に本と向き合う機会となり、読書活動の活性化に寄与した。
担当課	教育指導課	

事業名	生駒こどもチャレンジ補助事業	
事業の概要	子どもが課題に挑戦する機会を拡充すると共に、学校の各種コンテスト等の運営経費を補助する制度を創設する。児童生徒が挑戦し、実現し、達成感を味わうことができる機会を増やすことで、児童生徒の創造性が培われ、自己肯定感も高められる。	
目標	目標名	目標値
	実施学校数	2校
取組設定	・生駒こどもチャレンジ補助事業の継続実施	
実績・成果	1校がロボットコンテストに、1校がブラスバンドのコンテストに参加した。	
評価	A	コンテストに参加し、チームで協力することを通して、達成感を味わう機会を複数校で提供できた。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	部活動支援事業	
事業の概要	中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部顧問と協力して指導・助言を行うことにより、部活動を充実させる。また、生徒自身も外部指導者と協働し主体性をもって活動できるようにする。	
目標	目標名	目標値
	部活動指導員配置時間数	4320時間
取組設定	・中学校に外部指導者を配置	
実績・成果	バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、ソフトボール、バドミントン、野球、サッカー、剣道、水泳、吹奏楽、茶道など、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を8校に派遣。部活動指導員実施時間数：4,176時間	
評価	A	専門的な技術指導力を有する人材が不足する中で、学校長が必要と判断した部活動に対して、適切に外部指導者を派遣できた。今後部活動の地域移行を本格化させるために、前年度より多くの指導員を任用したことは、地域人材の発掘と活用の実現と言える。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	キャリア教育推進事業	
事業の概要	あこがれいこまびと講演事業、学校創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業を行う。地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方と連携し、体験活動や講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。また、児童生徒の思いや考えも大切にし、どのような学びを必要としているのかを探る。	
目標	目標名	目標値
	キャリア教育プランナーとの連携事業数	20回
取組設定	・あこがれいこまびと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業の実施 ・取組のカリキュラム化	
実績・成果	キャリア教育プランナーとの連携事業は26回実施され、学校ごとの教育課程に即した実践が展開されつつある。 プランナーは事前に学校と打合せを重ね、各校の課題や学年の特性に応じた内容で授業や体験活動を企画・実施した。 あこがれいこまびと講演事業や学校創造推進事業においても、地域の多様な大人との出会いの場を通して、児童生徒が将来の自分の姿を思い描き、学ぶ意欲を高める取組が継続された。	
評価	S	地域とつながる多様なキャリア教育の機会が継続的に提供され、児童生徒が自らの将来を主体的に考えるきっかけとなった。特に、プランナーとの継続的な連携により、学校現場での取組が質量ともに充実してきており、今後は各校でのカリキュラム化と評価方法の精緻化を目指す。
担当課	教育指導課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援	
事業の概要	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援として、希望する教職員を対象に、継続的な伴走型研修や助言を受けられる機会を提供する。また、インターネット上に用意された空間を利用し、学校間を越えて、教職員同士が学び合える場を提供する。	
目標	目標名	目標値
	伴走型研修参加人数	20人
取組設定	・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善のための伴走型研修の実施	
実績・成果	令和6年度は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善に向けて、伴走型の研修をオンラインで8回、対面で3回実施し、計92名(市内36名、市外56名)の教職員が参加した。 研修では、参加者が実際の授業実践を持ち寄り、互いの工夫や課題を共有しながら継続的な対話と振り返りを行った。 市外からの熱意ある実践者との交流が、市内教職員にとっても刺激となり、学びの質を高める要素となった。 また、オンラインコミュニケーションプラットフォームを活用し、研修参加者同士が学校の枠を越えて学び合える環境を整備した。	
評価	S	市内外の多様な教職員が継続的に学び合う機会が創出され、実践知の往還が授業改善の動機づけと質的向上につながった。今後は、こうした研修の成果を校内で共有・展開していく仕組みづくりや、継続的に参加者層を広げていくための工夫が求められる。
担当課	教育指導課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	教育・保育の質の向上	
事業の概要	全国的に報告されている保育施設内での不適切な保育の事例等から教育・保育の質の向上を実現するための手がかりを得る。また、より質の高い適切な教育・保育とは何かを考え、学び合い、子どもの人権を尊重した教育・保育のあり方を再確認し、実践するために研修内容の充実を図る。	
目標	目標名	目標値
	研修開催数	1回
取組設定	・不適切保育防止に向けた研修開催	
実績・成果	前年に引き続き、令和6年度は「不適切保育とは何か」「こどもの権利条約」について研修会を1回開催し、参加者の理解を深めた。	
評価	B	公私立保育施設職員研修会として公私立関係なく市内の保育施設を広く対象として研修会を実施し理解を深めた。不適切な保育を理解した上で、適切で質の高い保育を学び深めていく。一方、全ての職員が受講できてはいない。
担当課	幼保こども園課	

事業名	保幼小接続推進事業	
事業の概要	幼児と児童、職員同士の交流、参観や研修等具体的な取組を通して、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿や主体的・対話的で深い学びについて、互いの教育を理解する。	
目標	市内公私立幼稚園・保育所・こども園・公立小学校が連携し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る。	
取組設定	・接続カリキュラムの実態把握 ・課題の検討 ・改善方法の検討 ・具体的な実践への適用	
実績・成果	保幼小接続推進会議を6月、9月、1月と実施した。職員が互いの園、学校に行き参観することに加え、園児と児童が交流し、小学校区毎の保幼小接続プログラムを作成することができた。	
評価	A	完成した保幼小接続プログラムに合わせて、さらに具体的な内容について「架け橋期カリキュラム」を令和7年度作成予定
担当課	幼保こども園課・教育指導課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「サイエンス探究教室」の実施	
事業の概要	個々の多様な能力や興味関心をもとに、こどもたちが「自分で考え、調べ、実践する」力を伸ばせるような機会として、奈良先端大や奈良高専など高等教育機関と連携しながら、市内の中学生を対象とした科学(サイエンス)に関する「探究型」の連続講座を開催する。	
目標	目標名	目標値
	教室の参加者数	135 人
取組設定	・サイエンス探究教室の開催(3テーマ×3回/テーマ=計9回)	
実績・成果	・テーマ①「プログラミングを学ぼう」3回 参加者のべ39人 ・テーマ②「コンピューターの中をのぞいてみよう」1回 11人 計4回 のべ50人参加	
評価	A	講座内容や日程が整わず目標とした開催数の実施には至らなかったが、両テーマとも専門的な内容にも関わらず一定数の参加者を集めることができた。いずれの講座も子どもたちが「疑問について考え、情報を集め、理解・分析し、答えを導く」ことを体験する機会として充実したものであった。
担当課	生涯学習課	

事業名	ビジネス支援事業	
事業の概要	ビジネスに役立つ知識を学ぶ場として連続講座を開催し、様々な仕事に携わる市民が集い情報交換し交流することにより、新しいネットワークを作り出す。 多様な参加者が興味を持つビジネスに関するテーマとして「論語」のほか、ビジネスや本、歴史等に関する講座を開催し、語り合う場を設ける。	
目標	目標名	目標値
	参加者数	20 人
取組設定	・働く世代が興味を持つテーマを中心に連続講座を9回開催	
実績・成果	「働く大人の週末ゼミ」を全9回開催し、延べ244人参加、平均参加者数27.1人/回となった。	
評価	A	講座テーマの独自性や新規性に関心を持つ市民も多く、市民の学びの場となった。
担当課	図書館	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業名	小学校1年生30人程度学級の実施	
事業の概要	本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校1年30人程度学級を実施する。	
実績・成果	全小学校を対象に30人程度学級を実施することで、小学校1年生に対して、きめ細かい指導を行った。	
評価	A	国の少人数学級の実現として、35人学級が実施されることとなり、1年生について30人程度となるように、市で講師を配置し、引き続きすべての学校を対象に達成することができた。
担当課	教育総務課	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
これまで、中学校の部活動の指導を支援するために、部活動支援事業を行ってきたが、令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動を廃止する内容の通知が県からあった。学校活動の今後について市として方針を出して進めていく必要がある。	部活動の地域移行において、教育指導課とスポーツ振興課が連携をして、学校部活動の在り方について検討し、子どもたちがやりたいスポーツ環境を整えていく。
授業改善の伴走型支援を受けた教員が、その経験を校内に広げ、市全体で授業改善を目指す環境を作る必要がある。	市職員が積極的に各校を訪問し、授業改善に積極的な教員が孤立せずに校内で自身の取り組みを発信できる環境を整えていく。
子育てや仕事で忙しい世代の図書館利用促進や、図書館や読書に関心がない人等への読書啓発等が必要である。	地域住民や図書館利用者、市役所関係課、学校と積極的に連携し、デジタル化も視野に入れながら、読書人口を増やすとともに、新たな文化を創造するまちづくりの拠点としての図書館機能を強化する。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

市立小・中学校 児童生徒数（令和 6.5.1 時点）（単位：クラス、人）

小学校名	クラス数	児童数
生駒	31	743
生駒南	18	340
生駒北	9	145
生駒台	31	726
生駒東	17	430
真弓	23	619
俵口	20	413
鹿ノ台	23	528
桜ヶ丘	25	649
あすか野	33	807
壺分	30	752
生駒南第二	9	185
合 計	269	6,337

中学校名	クラス数	児童数
生駒	18	551
生駒南	8	131
生駒北	6	77
緑ヶ丘	14	442
鹿ノ台	12	254
上	21	666
光明	11	338
大瀬	20	511
合 計	110	2,970

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成

[アクションプラン掲載事業]

事業名	自殺対策推進事業	
事業の概要	令和6年3月に策定した「生駒市自殺対策計画」に基づき、「SOS の出し方に関する教育」の研修を実施する。そして児童生徒の心身の状況の把握や児童生徒への相談窓口の周知徹底を行い、スクールカウンセラー等の活用を実施する。	
目標	目標名	目標値
	研修回数	21 回
取組設定	・初任者研修での実施 ・各校にて児童生徒に対して開催	
実績・成果	・初任者研修と児童生徒対象に SOS の出し方授業を開催した。 ・全校(20校)にて授業を開催した。/回数:21回	
評価	A	児童生徒の自殺の現状や、自殺に至る要因などを学ぶことによって、児童生徒の自殺に対しての学校・教員の危機感を高めた。 また、教員がカウンセリングマインドを身につけることの重要性や、自傷行為を行う児童生徒に対する対処法などを学ぶことで、学校として可能な対応についての理解が浸透した。
担当課	教育総務課・教育指導課	

事業名	デジタルシティズンシップ教育の推進	
事業の概要	情報社会における安全やルールを児童生徒が主体的に考え、正しく理解し行動するための情報モラルを育成する。	
目標	目標名	目標値
	情報活用リテラシー自己評価	58%
取組設定	・各校で教職員対象の研修	
実績・成果	指導主事による教員向け情報リテラシー研修を20校に実施した。 情報活用リテラシー自己評価:58%	
評価	A	指導主事による教員向け情報リテラシー研修を実施するだけでなく、管理職及びICT活用教育リーダー向けにデジタルシティズンシップ教育について研修を実施し教員の指導力向上を図った。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	いじめ防止等の施策推進	
事業の概要	令和4年4月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止や早期発見につながる取組を推進する。	
目標	目標名	目標値
	いじめ問題対策連絡協議会開催回数	2回
取組設定	・生駒市いじめ問題対策連絡協議会の開催 ・いじめアンケートの実施 ・発達支持的生徒指導の考え方に基づいた児童生徒支援	
実績・成果	生駒市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催した。	
評価	A	「生徒指導提要の改訂と発達支持的生徒指導の考え方及びネットいじめ」を主なテーマに教育指導課から資料を提供して議論の機会を設けた。
担当課	教育指導課	

事業名	特別支援教育の充実	
事業の概要	令和4年文部科学省の調査では、通常学級に在籍する「特別な支援を必要とする児童生徒」の割合は約8.8%である。特別支援学級在籍児童生徒の教育的ニーズを把握し適切な支援を行う。	
目標	それぞれの障がい特性に合わせた支援を行う。	
取組設定	・特別支援教育支援員の配置 ・特別支援教育コーディネーター研修の実施(年9回)	
実績・成果	特別支援教育支援員を小学校12校、中学校8校にのべ5,018日配置した。	
評価	A	特別支援学級在籍児童生徒や通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童生徒の教育活動を支える環境を整えた。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	不登校支援推進	
事業の概要	学校に登校しづらい児童生徒に対して居場所となる「子どもの居場所・学び支援室」の設置運営。	
目標	児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるようにするための体制を校外に整える。	
取組設定	・安心して過ごせる環境と体制の確立 ・ほっとルーム入室対象を小1～中3に拡大する	
実績・成果	心理的あるいは情緒的な原因などにより学校に通いづらい児童生徒に対し、安心して過ごせる環境整備及び支援体制を確立できた。	
評価	A	心理的あるいは情緒的な原因などにより学校に通いづらい児童生徒に対し、居場所支援を行った。在籍児童生徒数は、いきいき50名、のびのび51名である。
担当課	教育指導課	

事業名	校内サポートルーム事業	
事業の概要	教室に入りづらい児童生徒を対象に、安心して過ごせる居場所を学校内に設置し、不登校支援を推進する。	
目標	児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるようにするための体制を校内に整える。	
取組設定	・2校をモデルに実証を行う ・環境整備を行い、ガイドラインを作成する	
実績・成果	市内中学校2校をモデル校として実証事業を行うことができた。環境整備、ガイドラインの作成及び校内サポートルーム支援員を配置した。	
評価	S	校外の生駒市子どもの居場所・学び支援室だけでなく、児童生徒が安心して過ごせる居場所を校内にも設置することにより、教室に入りづらい生徒も支援した。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	自校式通級指導教室推進事業	
事業の概要	令和5年度から現在配置している県費通級指導教師6人に加え、市費で4人配置することにより、各校平均週2回巡回を行っている。今後、県から担当教員の配置が増えるにあたり、通級指導を行う教員を育成する。通級指導教室の運営について指導助言及び運営補助を行い、自校式の通級指導教室を推進する。	
目標	支援が必要な児童生徒が自校で通級指導を受けることができるように体制の充実を図る。	
取組設定	・通級指導を学ぶ教員への補充教員 1人5校担当×2人＝週10校配置	
実績・成果	全校にて自校式通級指導教室を準備し、指導を実施。 小学校6校、中学校4校に対し、通級による指導を学ぶ教員への補充教員の配置。	
評価	A	自校に通級指導教室を準備したこと、教員が通級による指導を学ぶ機会を設けることで、必要な児童生徒に必要な支援が届けられるようにした。
担当課	教育指導課	

事業名	スクールカウンセラー配置の拡充	
事業の概要	不登校や学校生活に関わる悩み等を抱える児童生徒に対してカウンセリングを行うとともに、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行うことを通じて学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図る。	
目標	安心して相談できる体制を整える。	
取組設定	・スクールカウンセラーの配置 中学校(月4)、小学校(月2) ・スーパーバイザー(年30回) ・教育支援施設(毎週2人) ・ほっとルーム(週1日2人) ・SOSの出し方の授業を行う	
実績・成果	市費スクールカウンセラーを、中学校で週に1回、小学校で月に2回、1回4時間の活用を行った。	
評価	A	スクールカウンセラーの活用を通して、学校、児童生徒、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行い、学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図ることで適切な対応ができるとともに、より多くの相談への対応が可能となった。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	スクールソーシャルワーカー配置の拡充	
事業の概要	社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、問題を抱えた児童生徒に対し、置かれた環境に働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど多様な支援方法を用いて、課題解決への対応を図る。	
目標	支援が必要な児童生徒に対して課題解決ができる体制を整える。	
取組設定	・不登校支援体制を整える ・学校へ訪問し、現地で相談を受け対応する	
実績・成果	スクールソーシャルワーカーは週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣を行った。不登校支援体制の整備について助言を得た。	
評価	A	スクールソーシャルワーカーを週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣した。不登校支援体制の整備における課題の洗い出し及び今後の方向性についても、助言をもとに体制を整備した。
担当課	教育指導課	

事業名	多様性を認め合う場の提供	
事業の概要	世代や障がいの有無を越えてアート作品の製作に挑戦するアートプロジェクトの実施を通して、お互いの違いを受け止め、多様性を認め合う意識を醸成する。	
目標	障がいの特性が「個性」となることを知り、参加者それぞれが「障がいの有無」をはじめ他者との「違い」を受け止め、多様性として認め合う意識を高める機会とする。	
取組設定	・「インクルーシブアートワークショップ」の開催	
実績・成果	みんなでふれる！つくる！こえる！「インクルーシブアートワークショップ」(2日間) 令和7年1月18日(土)13:30～16:30 23人 令和7年2月8日(土)13:30～16:30 23人 「ちがいをを超える展覧会」(5日間) 令和7年2月20日(木)～24日(月・振)11:00～19:00 合計244人	
評価	A	多様な講座を実施することができ、アートを通じて幅広い年齢層が参加され、満足度の高い事業となった。また、展覧会では社会の多様性を共感、理解し合うことをテーマに多くの方に来場していただいた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	図書館読書バリアフリー事業	
事業の概要	障がい、高齢等の理由により、図書館の利用に困難を感じている人が気軽に利用できる図書館を目指し、ボランティアとともに読書推進を行う。	
目標	図書館利用に障がいがある人にとって、読書に親しむ機会を通して社会参画となることを目指す。	
取組設定	・音訳ボランティア養成講座、音訳サービスの実施 ・宅配サービスの実施 ・知的障がい者のための代読サービス実施 ・NAIST 連携事業 留学生と絵本であそぼ	
実績・成果	・音訳ボランティア養成講座全11回、延べ107人参加 - 耳で楽しむ本の会 10回、延べ340人参加 - 対面音訳 41回実施 録音図書作成3点 ・宅配サービス 350回実施、1,437冊貸出 ・知的障がい者のための代読サービス等 62回 ・NAIST 連携事業 留学生と絵本であそぼ 2回 71人参加	
評価	A	図書館利用に障がいがある人が、ボランティアのサポートのもと、様々な図書館サービスを利用することにより、読書推進が強化されることに加え、市民、利用者の交流の場となった。
担当課	図書館	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
市内中学校 2 校に対し、実証として校内サポートルームを設置した。他の学校に対しても同様に教室に入りづらい児童生徒の居場所づくり及び支援体制を整えていく必要がある。	令和 7 年度は、引き続き実証事業として校内サポートルームを 10 校に増やし、教室に入りづらい児童生徒の居場所づくり及び支援をおこなう。
図書館の利用に障がいがある人や、様々な理由によって図書館へ来ることが困難な人に対するサービスを実施しているが、利用できる時間が限られているなど、いつでも気軽に図書館利用ができる環境にはなっていない。	引き続き現在のサービスを実施するとともに、市民ボランティアの活動充実、研修による職員のスキルアップ等を図り、障がい者サービスの拡充を目指す。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針2 学びを通してつながり合える地域であるために

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業名	いこま教育フォーラム	
事業の概要	生駒市の学校教育の“今”を知り、“これから”を考える「いこま教育フォーラム」を継続的に開催し、これからの生駒の地域と学校について地域住民や保護者と共に考える機会を設ける。	
目標	目標名	目標値
	開催回数	2回
取組設定	・いこま教育フォーラムの実施	
実績・成果	令和6年度は、第3次生駒市教育大綱の内容共有とインクルーシブ教育の推進をテーマに、いこま教育フォーラムを2回開催した。第1回では、策定された教育大綱の概要と背景、市民・児童生徒の意見を反映したプロセスについて紹介し、先進自治体の実践事例も交えながら、今後の方向性について対話を深めた。第2回では、すべての子どもが共に学ぶ環境づくりをテーマに講演と意見交換を実施し、多様な立場の参加者が教育の包摂性について理解を深める機会となった。	
評価	A	教育行政の方針を保護者・教職員・地域の方々と共有し、共に学び考える場としてフォーラムが着実に機能している。令和6年度は、教育大綱策定の背景や考え方を参加者に丁寧に伝えるとともに、インクルーシブ教育の空間づくりというテーマを取り上げ、地域と学校の連携に資する場となった。今後は、こうした議論の成果を施策や現場にどう反映させていくかが課題である。
担当課	教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	
事業の概要	「IKOMAサマーセミナー」など、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって、市民への学びや体験の場を提供するとともに、市民が活躍する機会とする。 また、このような場づくりを市民が主体となって継続的に取り組み、さらに発展していけるよう支援することで、生駒の誇る「市民力」をさらに引き出し、市民の持つスキルやアイデアを活かしたまちづくりにつなげる。	
目標	目標名	目標値
	サマーセミナーに参加した「先生」の実人数(累計)	190人
取組設定	・市民主体の実行委員会による開催・運営	
実績・成果	R6.7.28(日)コミュニティセンター 講座数 45講座 参加先生数 76人(累計205人) のべ受講者数 525人	
評価	A	前年度より実行委員数も増加し、ネットワークを通じて先生となる人材の発掘やセミナーの構成を作ることができた。 アイデアを持ち寄り特別講座やフォトブースの設置など興味を引く学びや体験の場を作り、密度の濃いセミナーとなった。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	高齢者教育推進事業	
事業の概要	人生100年時代にあって、第2・第3の人生をより充実して過ごせるよう、学びと交流の場への参加を通して個々の知識教養の充実を図るとともに、学びで得た知識や経験を地域活動への参加等まちづくりにつなげるほか、安心して心豊かなセカンドライフを支援する取組を進める。 ・いこま寿大学の運営 62歳以上の市民を対象に、様々な学習活動を通して「健康づくり」「生きがいづくり」「仲間づくり」をしながら、「まちづくり」でも活躍できることを目指して学ぶ。 ・セカンドライフ充実支援 講演を通して豊かなセカンドライフのための意識づけを行うとともに、個別のテーマによる実践講座により具体的なプラン作成や行動につなげる。	
目標	目標名	目標値
	セカンドライフ充実支援講座の受講者数(累計)	600人
取組設定	・いこま寿大学の運営 ・セカンドライフ講演会の実施 ・セカンドライフ実践講座の実施	
実績・成果	・「いこま寿大学」について、学習期間(2年または4年)の選択や再入学を可能とした制度での運営 ・一般教養学習会のなかで地域共生社会の実現に向けた講演会を実施。 ・豊かなセカンドライフの実現に向けた講座の開催 実践講座 3回 参加者数:計63人 講演会の開催 1回 参加者数:計152人 累計575人 ・気らくネットによる社会貢献活動	
評価	A	寿大学については、予定通りの学習活動を行うことができ、学生に対して充実した学びを提供した。 学生数が年々減少していることに伴い、今後学びの種類やあり方については検討が必要である。 セカンドライフに関しては、実施回数は昨年度より少なかったものの、満足度は高く、特に「片付け講座」に関しては学んだことを当日から実践しようとする意欲が見られるなど内容は充実していた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学びと活躍推進事業	
事業の概要	主に働き盛り世代を対象に、人生の選択肢を増やし、ウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態)に生きるための知恵・スキル・つながり等を育む学びの場「ischool」を展開する。ischool では、社会や地域課題、市民ニーズを踏まえた多様なテーマの講座を、市民協働や他課との連携により企画・運営する。	
目標	目標名	目標値
	アンケートで「今後の暮らしで活かしたいことがあった」と回答した人の割合	70%
取組設定	・市民協働や他課との連携による講座の開催 ・学びのポータルサイトの運用	
実績・成果	・未来ひろがる学びの場「ischool」 - 学びと交流の社会見学「まちミル」 - 開催回数:1回 参加者数:39人 「ミライの教室」 開催回数:6回 参加者数:250人 「ischool for kids」生駒妖怪博物館をつくろう! - 開催回数:1回(3日間) 参加者数:20人 - 初めての人のためのITエンジニア講座 - 開催回数:1回(4日間) 参加者数:34人 ・「学びのポータルサイト」の運営 - 年度中のページビュー数:64,019	
評価	A	ischoolでは、子育て世代のニーズに沿って多様な講座を市民と連携して企画、実施した。 それぞれの講座において、より参加者の興味関心や学びのニーズに沿った内容になるよう、昨今の情勢を含め検討をおこなった。特にこどもたちが地域の中で体験を通して学び、探求心や創造力といった「学びたい」気持ちを育むアプローチを創出することを目的に「ischool for kids」を3日間開催し、参加者からは満足度の高い講座になっただけでなく、地域のことを知る社会教育に繋がった。 「学びのポータルサイト」では講座の告知から、開催後のレポートによる学びの振り返りまで様々な情報を発信することで、多くの関心を集めることができ年々認知度が上がってきている。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信	
事業の概要	伝統文化に親しむ機会の拡充や継承を進めるほか、郷土学習の拠点である生駒ふるさとミュージアムの事業（特別展示や、市史編さん事業に携わる専門家等と連携して実施する講座、小学校向け出前授業等）を通して本市の歴史文化を発信し、市民の郷土愛を高める。	
目標	目標名	目標値
	生駒ふるさとミュージアムの年度来館者数（館外事業参加者を含む）	9,000 人
取組設定	・市内小学校を対象とした、高山竹林園での茶道体験補助事業の実施 ・ふるさとミュージアムにおける講座、特別展・企画展、出前授業等の開催	
実績・成果	・高山竹林園での茶筌製作実演や茶道体験の学習支援 参加校数：8校 参加者数：計755人 ・生駒ふるさとミュージアムの来館者数（年間）：7,512人 ・小学校への出前授業実施校数：7校 参加者数688人	
評価	A	・高山竹林園、生駒市茶道協会との連携により、市内小学校児童が茶筌や茶道に触れる機会を提供した。 ・ふるさとミュージアムにおいては、本市の文化財や歴史にふれる展示や講座、講演会等を開催したほか、小学生を対象に昔のくらしやまちの移り変わりなどをテーマとした出前授業にも力を入れるなど、幅広い世代に本市の歴史文化を伝えることで、郷土愛の醸成につなげた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「音楽のまち生駒」推進事業	
事業の概要	公募提案型の「市民みんなで創る音楽祭」や市民吹奏楽団を中心とした吹奏楽事業等により、市民との協働で「音楽のまち生駒」を推進し、音楽文化の担い手の拡大や、文化芸術を通じた本市の魅力向上を図る。	
目標	目標名	目標値
	市主催音楽事業の来場者数	7,600 人
取組設定	・「市民みんなで創る音楽祭」の開催 ・リベラルコンサートの開催 ・市民吹奏楽団事業の開催 ・ライオンズコンサートの共催	
実績・成果	・「市民みんなで創る音楽祭」 提案団体 11団体 実施団体 9団体 来場者数 2,804 人 出前授業 7校 参加者 2,691人 ・「第71回リベラルコンサート」(11月17日開催) 来場者数 550人 ・市民吹奏楽団事業 「いこすいフェスタ 2024」(6月 23日開催) 来場者数 800人 「0才から楽しめるファミリーコンサート」(2月2日開催、2回公演) 来場者数 1,860人 「いこま吹奏楽の日」(3月2日開催) 来場者数 1,800 人 ・「第30回ライオンズコンサート」(2月22日開催) 来場者数 600人	
評価	A	・「市民みんなで創る音楽祭」は新しく創設した募集枠である「自主事業枠」2公演を含む9公演を行い、市内外の観覧者に良質の音楽を届けた。また、市内小中学校へのアウトリーチ公演は実施校数や参加者数も増え、子どもへの音楽教育の充実にも貢献した。 ・吹奏楽事業を含めいずれの事業も多数の来場者に恵まれ、「音楽のまち生駒」を市内外に発信した。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	
事業の概要	市民との連携や「協創」のもと、人と本、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造するまちづくりの拠点となる図書館を目指す。市民と協働しイベントや図書館事業を実施するほか、まちかど図書室等、市民から市民へ読書啓発を行う団体を増やし、その活動をサポートする。	
目標	目標名	目標値
	団体貸出登録数	165 団体
取組設定	・本棚の WA、未在亭 ・まちかど図書室 ・官民協創事業はっばクラブ試行	
実績・成果	・本棚の WA 3回実施延べ 64 人参加 ・未在亭 3回実施延べ 67人参加 ・まちかど図書室 39団体登録 出張図書館(貸出サービス)133回実施 2,244冊貸出 リサイクル本480冊譲渡 読み聞かせ等70回実施 ・官民協創事業はっばクラブ試行 登録者54家族 イベント4回実施 延べ 81 人参加 ・団体貸出登録数 168団体	
評価	A	様々な団体や市民と協働し、読書推進を図りながら、市民のネットワークづくりにつなげた。
担当課	図書館	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	地域スポーツ推進事業	
事業の概要	・多くの市民が参加しやすいスポーツイベントとして「いこまスポーツの日」を開催し、スポーツを始めるきっかけとすることや、市内総合型地域スポーツクラブやスポーツ施設指定管理者の事業を紹介することで、市民の継続的なスポーツ活動に繋げる。また、子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が気軽に参加できる「スポパ+（プラス）」を開催する。 ・障がいの種別や程度に関らず「やりたい」「やってみよう」という思いを持ち、スポーツに親しみ楽しむことができるよう、スポーツ施設の開放事業や障がい児を対象とした体づくり運動プログラム「できるがみえる」を実施する。 ・スポーツに夢や憧れを抱けるように、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、有名スポーツ選手と触れ合う機会をつくる。	
目標	目標名	目標値
	各種事業の開催	12回
取組設定	・いこまスポーツの日やスポパ+の開催（2回） ・障がい（児）者のためのスポーツ施設開放事業の開催（4回） ・障がい児のための体づくり運動プログラムの実施（4回） ・メダリストやトップアスリートを招聘しスポーツ教室や講演会の実施（2回）	
実績・成果	・スポーツを始めるきっかけやスポーツに親しんでもらえる1日とするため「生駒スポーツの日」（令和7年3月20日）を開催 参加者数：1,021人 ・子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が気軽に参加できる「スポパ+（プラス）」（令和6年10月27日）を開催 参加者数：229人 ・障がい（児）者のためのスポーツ施設開放事業：4回開催 ・学校生活で頻度の高い“跳ねる”“投げる”“蹴る”の3つの動きを、作業療法士、理学療法士、スポーツ指導者により小集団で実施する障がい児用運動プログラム：4回開催 ・田中琴乃氏による新体操体験会（20人参加）や、浅香山部屋によるちびっこ相撲体験会（18人）の実施	
評価	A	「いこまスポーツの日」の開催にあたり、市スポーツ施設指定管理者や市内総合型地域スポーツクラブ等と連携したことで、バルセロナアカデミー奈良校によるサッカー教室や、リレーマラソン、eスポーツ体験会、芝生でピラティスの開催などを実施し、多くの市民の参加を促した。 従来、10月に実施していた「ファミリースポーツの集い」と「障がい者・児のためのスポーツパーク」を統合し、全市民を対象として体育館及びグラウンドを開放し、性別、年齢、体力、障がいの有無に関わらずスポーツを行うことができるイベント「スポーツパーク+（プラス）」に変更した。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

	また、障がい児用運動プログラムは、昨年度から引き続き参加している人もおり、参加者から高い評価を得た。 トップアスリート連携事業については、オリンピックによる新体操体験会や相撲体験会など国内外のトップレベルのアスリートと触れ合う機会を創出した。
担当課	スポーツ振興課

事業名	新たな地域クラブ活動推進事業	
事業の概要	学校部活動の地域移行を見据えた「新たな地域クラブ」を拡充するため、引き続き「新たな地域クラブ活動推進協議会」の運営とコーディネーターを配置するとともに、学校関係部局や中学校等との連携を図る。また、新たな地域クラブ活動の推進に合わせ、学校体育施設開放事業における運用ルールの見直しや有料化等の検討を行う。	
目標	奈良県が掲げている「令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動の廃止」に向け、新たな地域クラブの拡充のため、実施主体の組織体制の強化などの環境整備を図る。	
取組設定	・推進協議会の運営 ・コーディネーターの配置 ・新たな地域クラブ拡充 ・学校体育施設開放事業運用ルールの見直し	
実績・成果	・新たな地域クラブ活動推進協議会を2回開催 ・コーディネーターを引き続き配置 ・新たな地域クラブ活動を7クラブ実施 ・学校体育施設開放事業運用ルールの見直しに向けた検討	
評価	A	学校部活動の地域移行や地域連携に伴う国の実証事業を受託するとともに、新たな地域クラブ活動推進協議会の開催やコーディネーターによる調整など、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保できるよう支援を行った。県の令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動を廃止する方針を受け、新たな地域クラブ活動の推進に向け教育指導課や学校現場との調整を行うとともに、新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針(案)の検討を行った。また、令和8年4月からの運用に向けて学校体育施設開放事業運用ルールの見直しに向けた検討を行った。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
いこま教育フォーラムの内容を、理論で終わらずに現場に実践できる仕組みを構築する必要がある。	現場に寄り添った支援ができるように、積極的に学校へ訪問して教職員が気軽に相談できる体制づくりを進める。
学びを通じてつながり、支えあう地域づくりの実現のため、あらゆる世代へ学ぶ機会や交流の場を創出しているが、「いこま寿大学」入学者数の減少している状況から学びのニーズが変化してきていると考えられる。 また「働き盛り世代」については日々の生活が多忙で学びの時間の確保が課題であると考えられる。	「いこま寿大学」については、60歳を過ぎても現役で働く人口が増加している中、学びのニーズの変化をとらえ、仕組みや内容を変更していく必要がある。 また、「ischool」では多様な世代を対象とした魅力ある講座の実施を進めていく。
図書館では様々なイベントや活動を通してネットワークを構築し、様々な連携の力によって、多くの事業を成している。読書という活動によってつながれる人はまだ限られており、より多くの人に関心を持ってもらう必要がある。また、「はっぱクラブ」では保護者がアプリ内で意見交換することで交流を深めようとするものであったが、活発な意見交換が行われなかった。	図書館という場で初めて出会う市民が、様々な活動に参加しやすい場となるような勧誘方法や、プログラム作成など工夫する必要がある。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

<参考データ>

いこま寿大学の在籍者数等

(単位：クラブ、人)

	クラブ数	在籍者数	入学者数	定員	応募者数	卒業者数
令和3年度	16	452	84(※)	275	65	129
令和4年度	16	355	73(※)	275	71	96
令和5年度	13	363	159	215	161	101
令和6年度	12	329	116	191	122	118

(※) 令和2年度に願書を提出したがコロナ禍のため入学を見送り、令和3年度に改めて入学した者を含んでいる。

生駒ふるさとミュージアム来館者数

(単位：人、件)

	大人	子ども	合計	多目的室利用件数・人数	
令和3年度	5,230	3,309	8,539	339	5,039
令和4年度	5,217	2,401	7,618	306	5,153
令和5年度	5,151	1,957	7,108	249	5,488
令和6年度	5,155	2,357	7,512	235	4,871

文化芸術事業の開催状況

(単位：回、人)

	種 別	令和5年度		令和4年度	
		延べ回数	参加者数	延べ回数	参加者数
市主催事業	市民文化祭等	18	12,161	18	12,713
文化芸術団体補助事業	コンサート等	3	1,300	3	1,078
指定管理者自主事業	コンサート等	61	10,082	51	8,955
	講 座	357	13,968	334	11,984
合 計		439	37,511	406	34,730